

第5回 名取川・阿武隈川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会

議事概要

日時：平成30年8月7日（火）11時00分～12時00分

場所：仙山河川国道事務所2F 大会議室

委員出席：仙台市危機管理監、白石市長（代理：総務部長）、名取市長（代理：副市長）、角田市市長、岩沼市長（代理：副市長）、蔵王町長（代理：副町長）、七ヶ宿町長（代理：副町長）、大河原町長（代理：副町長）、村田町長（代理：危機管理監）、柴田町長（代理：総務課長）、川崎町長（代理：課長補佐）、丸森町長（代理：副町長）、亘理町長（代理：副町長）、山元町長（代理：総務課長）、気象庁仙台管区気象台気象防災部長、宮城県総務部長（代理：危機対策課長）、宮城県土木部長（代理：次長）、宮城県仙台土木事務所長（代理：河川部長）、宮城県大河原土木事務所長（代理：副所長）、宮城県仙台地方ダム総合事務所長、釜房ダム管理所長、七ヶ宿ダム管理所長、仙山河川国道事務所長

（1）減災のための目標と進捗状況について

●事務局（仙山河川国道事務所）・（宮城県）

⇒意見等なし。

（2）情報伝達・避難計画等に関する事項の進め方について

●プロジェクト会議 幹事（丸森町）

- ・平成30年3月29日に角田市・亘理町・山元町・丸森町の1市3町で大規模氾濫時の隣接市町間における避難の連携に関する協定を締結した。
- ・当減災対策協議会のソフト対策の取組として、平成29年度より1市3町による隣接市町間の避難計画策定に向けたプロジェクト会議で検討をすすめ、協定締結に至った。
- ・本年3月29日に締結した協定書は、隣接市町間の避難場所の利用にかかる相互援助を円滑に行うことを目的に必要な事項を定めるというものである。
- ・相互援助の内容については、協定書の第6条に規定があり、1つが、指定避難場所の相互利用。2つ目が、避難場所の状況や避難者の把握などの情報提供、情報収集。3つ目が、被災者の一時収容のための施設提供。4つ目が、援助物資の調達、提供。この協定書の内容をより実行性あるものとするために、今年度もプロジェクト会議をスタートした。
- ・平成30年7月17日に開催したプロジェクト会議では、各市町での洪水時でも使用可能な指定避難場所等の確認と、避難や受け入れの考え方について意見交換を行った。
- ・現在、各市町それぞれで避難対象者数と収容人数を比較し、隣接市町への避難が必

要な人数、あるいは受け入れ可能な人数を算出しているが、指定避難所をベースで考えるのか、指定緊急避難場所をベースで考えるのかという整理がまだ不十分な点もある。

- 阿武隈川で町が左右に分断されており、角田市や丸森町は、避難勧告等を発令する状況では、阿武隈川にかかる橋を渡って避難することは難しいと考えている。
- このため、阿武隈川の右岸側・左岸側を区分けした上で、避難場所の不足や受け入れ状況を把握する必要がある。特に、避難者の多い阿武隈川の左岸側については、現在の1市3町の枠組みでは、カバーしきれないという予測もあり、更なる隣接市町村との援助協定が必要ではないかという意見も出されている。このため、各市町の洪水時に使用できる指定緊急避難場所、および指定避難所の位置関係を整理し、エリアごとに避難想定イメージを深めながら検討を進めていきたいと考えている。
- しかしながら、実際の台風や線状降水帯などによる大雨の際は、阿武隈川の氾濫のほか、内水被害や土砂災害、沿岸部では高潮被害、更には、水位周知河川の指定を受けていない阿武隈川の支流の氾濫なども心配される場所である。そういった意味では、あまり狭いエリアにこだわっての検討を進めても、実際にはなかなか想定通りに進まないということも考えられることから、避難所のルールや避難場所の運用等の詳細や細則、そういった基本的な内容をベースとして検討することも考えている。
- 今後もプロジェクト会議については、以上のことを踏まえ、構成市町の皆さんと相談しながら進めていきたいと考えている。
⇒異議なし。

○委員（角田市）

- 角田市では、防災マップの水害編を平成29年3月に、1万5000部作成し、全戸配布した。
- 高台にある角田高校を水害時の避難所に指定した。また、阿武隈川左岸の北部では、アイリスオーヤマ角田工場、ウォルブロー角田工場の2カ所を、高台の避難所として指定し、地域の方々が避難訓練を行っている。
- 隣接市町間の避難計画策定に向けた取り組みということで、角田市も参加している。阿武隈川の右岸地区、枝野・藤尾・東根地区の方々が洪水で避難する場合に、市内での避難所の人数が限定されているので、450人ほど避難できなくなる方々が出てくる。亙理町あるいは山元町の避難所をお借りして避難するというので、この計画ができた。具体的に、どこにどの地域の人達が何人ということを改めて検討し、早急にこの形を作っていきたい。
- 阿武隈川左岸地区が人口の多いところで、避難所が角田高校だけということになると色々問題があり、山を越えた白石市や大河原町との連携で避難者を受け入れていただくことも、これから検討が必要ではないかと思っているので、改めてご相談をさせていただきたい。
- アイリスオーヤマの角田工場辺りが大変低い堤防で、洪水の可能性はある。国道349

号との兼用堤にもなっており、大変重要な部分なので、早期に整備をしていただきたいということで国交省に要望活動を行っている。

○委員（仙台市）

- ・仙台市では、西日本豪雨の対口支援で、岡山県の総社市に職員を派遣しているが、隣接の大変甚大な被害があった倉敷市の真備町から、多くの市民の方が総社市へ避難しており、総社市の避難所では避難者の8割弱が隣接する真備町の市民の方である。こうした点を受けて、広域避難の必要性というものを認識している。
- ・想定最大規模降雨を踏まえた浸水想定区域に関して、名取市を流れる増田川の浸水想定区域が仙台にもかかっているため、名取市と避難勧告等の発令の際には、お互いに連携した発令ができるよう出水期前に連絡体制を整えた。
- ・こういった広域連携・広域避難等の自治体間の連携については、引き続き名取市と協議を進めていくが、本協議会において、隣接市町間における避難の連携に関する取り組みの拡大について、更なる検討がなされることを希望する。

(3) 情報提供

●事務局（仙台河川国道事務所）

今年度の豪雨災害を受けての情報提供

●仙台管区气象台

タイムラインについて